その他の商品

Other Products

任天堂TOPへ

花札·株札

その他の商品TOP > 花札の歴史・遊び方

花札の歴史・遊び方

History And How To Play Hana-fuda

一花札の歴史

札ができたと言われています。花札ゲームの中でも2人でブレイする「こいこい」は、勝負勘・度胸・かけひき・冷静さを必要とす る現代版知的ゲームです。

人 数 2人で遊びます。3人以上の時は、親の決め方と同じ方法で2人にしぼります。

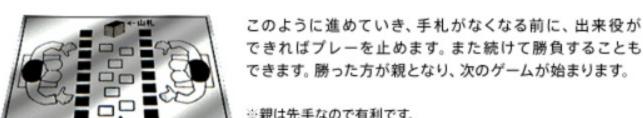
花札の歴史は安土・桃山時代の「天正かるた」、江戸時代上期の「ウンスンカルタ」から、江戸時代中期に現在使用している花

|親の決め方 裏向きの札を1枚ずつめくり、月の早い方が初回の親となります。 ※できれば、ジャンケンやサイコロは控えてください。

| 使 用 札 1組48枚。2組(黒・赤)を交互に使うとスピーディにスムーズに進行します。

| プレーの開始 親は"子・場・親"の順に2枚ずつ手に8枚を裏向けて、場に8枚表を向けて配り (手八の場八)、残りは山札として裏を向けて積んでおきます。

> まず、親から順番に手札の1枚を場に出し、合う札があれば合札とし、ない場合は捨て札となります。 次に山札から1枚をめくり、同様に合う札があれば合札とし、ない場合は捨て札となります。 合札は自分の札となり自分の前に、表を向けて並べておきます。



できます。勝った方が親となり、次のゲームが始まります。 ※親は先手なので有利です。

※どちらも役ができない場合は、ノーゲームとなり親が交代します。

| **勝負、こいこい** 出来役ができ、さらにもっと大きな役が期待できそうな場合、「こいこい」と言って、ゲーム をさらに続けることができます。但し、自分に次の役ができる前に相手に役ができた時 は、得点の倍返しとなります。

|ゲームの目的 とにかく出来役を早くつくることです。後はかけひきです。

| 得 点 計 算 7点以上は倍の得点となります。 12回戦で終了し、合計点の多い方が勝ちです。

|手 札 の 役 最初に配った手札8枚に、次の役ができていた場合は、 その得点をもらい、次の回となります。

> 手四(てし):同じ月が4枚あるとき …… 6点 くっつき :同じ月が2枚ずつ4組 …… 6点

|特別な札 菊に盃は、10点札とカス札としても通用します。

|出来役一覧 ところによっては、役・点数共異なることもありますので、ブレイの前に打ち合わせをしてください。

1.五光

2.四光

3.三光

雨以外の20点札3枚

5.月見で一杯

4 と5 は省いてもよい。

6.猪鹿蝶

1点プラス

7.赤短

1点プラス

8.青短

1点プラス

9.タネ

1点プラス

10.タン

1点プラス

11.カス

1点プラス

他の短冊札が1枚ふえるごとに

10点札5枚、10点札1枚ふえるごとに

短冊札5枚、短冊札1枚ふえるごとに

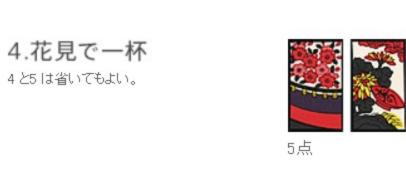
カス札10枚、1枚ふえるごとに

雨入り四光は7点とする。

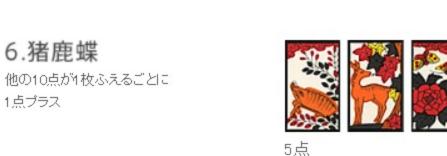






















12.赤短・青短の重複 他の短冊札が1枚ふえるごとに 1点プラス



|札の知識





20点

10点